

私たちのSDGs



居住促進住宅4号に関わった
舞鶴高専専攻科2年東暖人さん

居住促進住宅4号の調査に行ったとき思ったのは「川越しに山が見える景色がきれい」でした。家の中からその景色を切り取って見ることができるよう窓を作り、地域の人がくつろぎながらコミュニケーションが取れるようにと玄関を広くして、腰掛けられるように工夫しました。またゆとりを持ってるように梁を見せることで縦にも空間を作りました。

調査のときから近所のおばあちゃんが見に来てくれたりと、舞鶴は人との距離が近く感じました。隣近所が外部からの人を歓迎してくれると移住が促進され住みやすい環境になると思います。



居住促進住宅4号に関わった
舞鶴高専専攻科2年海邊華恋さん

一人暮らしをしているのですが、困ったときは近くに頼れる人がいてほしいと思います。隣にいる人が分からないのが普通になってきましたが、近所付き合いがある方が自分にとっても地域にとってもいいと思います。建物の改修を通して地域の人とコミュニケーションが取れる地元への愛着が湧き、それがSDGsの掲げる「住み続けられるまちづくり」につながるのはいいなあと思いました。地元がにぎわっていると、外から見てもそれが魅力的になって住みたい・住み続けたいと思っ好循環になればいいですね。



舞鶴高専建設システム工学科教授
尾上 亮介さん

高専として複数の居住促進住宅に携わることでスタッフが育ち、いいものができるなど教育の質も上がっています。1戸の住宅を改修して1組の住民が入るということは空き家全体の問題としては小さいのかもしれませんが、そこに地域の人が結びつくことで1組の出来事ではなく広がりができます。空き家も使えない状態で放っておくのではなく、活用しやすい環境にできれば新しい住み方や次世代のまちづくりに生かれます。整備されて空いている家ならまちのゆとりにもなり、いろいろなものに化ける可能性があるのではないのでしょうか。



あそびあむを訪問していた
巽さん一家

うちは核家族で親のつながりが子どもの友達にも影響するので、あそびあむや子育てひろばなどに行っています。自然の中で伸び伸びと遊んだり、たくさんの人と関わったりして育つことが子どもにとって質の高い教育ではないかなと思います。あそびあむは木のおもちゃがたくさんあり、外でも遊べるので週2、3回くらい通っています。子どもにはいろいろなことを経験させてあげたいので、早くコロナが落ち着いている箇所へ連れていきたいですね。



三世代同居をしている
内藤幸吉さん、あけみさん

今年の2月から息子たちと一緒に住んでいます。広報まいづるや新聞で市の三世代同居の補助金を見つけ、タイミング良く活用してもらいました。私も仕事を続けていますが、休日は農業もしていて息子や孫が手伝ってくれます。孫のような小さい子がいると近所の人もたくさん話に来てくれます。若い人がいると地域が明るくなるのでいいですね。孫が幼稚園で習ってきた歌を歌ってくれるのが毎日の楽しみになっています。SDGsは知りませんが、住み続けられるまちのために若い人が必要だと思います。



三世代同居をしている
内藤文哉さん、由佳さん、蒼太くん

子どもが生まれてから、子育ての環境も考えるようになり帰郷しました。庭が広いので走り回れるし、自然の中で四季の移ろいを感じられるので、以前住んでいたアパートより伸び伸びと子育てができています。SDGsはテレビ番組で連日紹介されているので少し知っています。陸の豊かさや海の豊かさが舞鶴にはあるので住みやすいと思います。今は父に農業を教わっていて休みの日も忙しく話し相手も多いのでつついとお酒の量も増えてしまいますね。



コウノトリ野生復帰事業特別協力員
で日本野鳥の会 船本明さん

コウノトリの調査にあたり、コウノトリの郷公園と連携して情報提供しています。一度絶滅してから人工飼育し、現在野生として200羽以上に数を増やし、舞鶴でも飛来が目撃されています。コウノトリは警戒心が強いので150羽以上離れる、地元住民に迷惑をかけるなど観察者のマナーも大切です。舞鶴は希少種を含め200種近くの鳥類がいます。そして湿地生態系の頂点のコウノトリがいることは、それを支える昆虫や両生類や爬虫類がいて、自然の豊かさの証明になります。SDGsが環境のことを考えるきっかけになればうれしいです。



舞鶴中高生合同合唱団を指導する
中野 紗織さん、川崎 美耶子さん

田中彩子さんが文化親善大使に就任されたことはプロの歌声に触れる機会ができて、子ども達にとっていい経験になると思います。委嘱式のスピーチも素敵で自分らしく曲げない意思など夢を持つことの大切さを教えてくれ、生の歌声の迫力は、言葉で教えるだけでは伝わらない音楽の深みや情熱を感じてもらえたと思います。今後、オーケストラを交えて「市民の第九」を合唱しますが、練習で一緒に歌う人とのコミュニケーションは子ども達の成長につながりそこで楽しみます。希望者全員が合唱に参加するチャンスがあったのも良かったと思います。

